

◆◆関東地方整備局の動き◆◆

1. 平成27年度関東地方整備局関係補正予算の概要について

関東地方整備局

平成27年度関東地方整備局関係補正予算として、1,440億円が配分されました。

平成27年度国土交通省関係補正予算のうち、関東地方整備局関係の配分概要は本文資料(PDF)別紙のとおりです。

[本文資料\(PDF\)](#)  [201 KB]

※国土交通省(本省)の予算概要については、国土交通省ホームページをご覧ください。

【国土交通省の平成27年度補正予算】

http://www.mlit.go.jp/page/kanbo05_hy_000832.html

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/kyoku_00000762.html

2. 【新宿南口交通ターミナル】 愛称が決定しました！！

東京国道事務所

【内容】

今春にオープン予定の「新宿南口交通ターミナル」。愛称の一般公募をしておりましたが、決定いたしましたのでお知らせいたします。多数のご応募ありがとうございます。

なお、選定にあたっては、有識者委員や行政委員による「新宿南口交通ターミナル名称選定委員会(委員長:岸井隆幸日本大学理工学部教授)」「本文資料(PDF)別紙3」参照)において審議のうえ決定しております。

オープンした際には、電車から高速バス、タクシーなどへの乗換えがスムーズな駅直結のターミナルとなりますので、多くの方のご利用が期待されます。

【愛称】

バスタ新宿 (「本文資料(PDF)別紙1」参照)

【応募状況等】

平成 27 年 10 月 28 日(水)から 11 月 23 日(月)の間に、一般公募を行い、1,733 作品の愛称案をご応募いただきました。(「本文資料(PDF)別紙 2」参照)

詳しくは、関東地方整備局ホームページ及び Facebook でご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/toukoku_00000236.html

<https://www.facebook.com/ktr.mlit.go.jp>

3. 「平成 26 年度 日本風景街道関東優秀活動賞」に『千曲川・花の里山風景街道』が選ばれました

長野国道事務所

地域の団体と国土交通省がともに取り組みを進めている「日本風景街道」の関東ブロック 19 ルートのうち、長野県飯山市内で活動を行っている「千曲川・花の里山風景街道」が平成 26 年度に実施しました『北陸新幹線飯山駅開業に向けた景観形成の推進』に対する取り組みが評価され、風景街道関東協議会より「関東優秀活動賞」として表彰されました。

詳しくは、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/nagano_00000234.html

4. ～「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」と道の駅「ひたちおおた」との連携～ 道の駅を拠点に地域活性化に取り組みます！！

茨城大学
茨城キリスト教大学
茨城工業高等専門学校
常磐大学
常陸太田市
常陸河川国道事務所

大学と「道の駅」の交流・連携の一環として、「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム(茨城大学・茨城キリスト教大学・茨城工業高等専門学校・常磐大学)」と、平成 28 年 7 月(予定)のオープンに向け準備を進めている道の駅「ひたちおおた」及び常陸河川国道事務所の 3 者で連携企画型の学生実習を実施することになりました。

この取り組みは、将来の地域活性化の担い手となる人材を育成・確保するとともに、「道の駅」が地域活性化の拠点を目指して進化を遂げるため、「道の駅」と大学がお互いのニーズを確認し、付加価値を創出する企画・立案等を実施するものです。(詳細は別途資料参照)

なお、連携企画型における複数の大学等のコンソーシアムによる取り組みでは、全国初となります。

【実施内容】

- (1) SNS を利用した情報発信の強化
- (2) 若者や女性向けの魅力ある企画の提案
- (3) 地域の活性化に寄与する共同研究の実施

詳しくは、関東地方整備局ホームページをご覧ください。

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/hitachi_00000255.html

5. 国土交通行政モニターの募集について

関東地方整備局
関東運輸局
東京航空局
東京航空交通管制部

国土交通省では、平成 28 年度「国土交通行政インターネットモニター」を募集します。

1. 目的 国土交通省は、皆さまから広くご意見をお聴きして、国土交通行政に反映させることを目的として『国土交通行政インターネットモニター』を募集します。
2. 募集者数 関東ブロック 278 名程度(全国 1,000 名程度)
3. 募集期間 平成 28 年 2 月 1 日(月)～平成 28 年 3 月 7 日(月)
4. 応募方法 「国土交通行政インターネットモニターホームページ」
(<https://www.monitor.mlit.go.jp>)から応募していただきます。
5. 応募資格 日本国内に居住する 20 歳以上(H28.4.1 現在)の方で、インターネットを容易に利用でき、国土交通行政に対する高い関心と熱意を有する方とします。

ただし、国会・地方議会の議員、国土交通行政に従事する常勤の公務員、国土交通省所管の独立行政法人等の役職員及びその同居の親族は除きます。

6. モニターの仕事

(1) 国土交通省が提示する「アンケート調査」に回答していただきます。(国土交通省が提示する「課題」に対して意見書を提出していただく場合もあります。)

(2) 国土交通行政に対するご意見・ご要望を「随時意見」として提出することができます。

7. その他 関東ブロックとは、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県及び長野県の1都8県です。

募集の詳細は、本文資料(PDF)別添の平成28年度「国土交通行政インターネットモニター」募集要領をご覧ください。

幅広い皆様からのご応募をお待ちしております。

• 別紙・参考資料

[本文資料\(PDF\)](#)  [139 KB]

詳しくは国土交通省ホームページ、関東地方整備局ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo01_hh_000105.html (国土交通省)

http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/soumu_00000234.html (関東地方整備局)

◆◆国土交通本省の動き◆◆

1. 橋やダムなどのインフラを観光資源に 全国のインフラツアーを紹介するポータルサイトを開設

橋やダム等のインフラを観光資源として活用する取組をさらに推進するため、全国でどのようなインフラツアーが実施されているのかなどを紹介するポータルサイトを開設しました。

同ポータルサイトでは、「インフラツーリズムのパネル」のほか、「各地方整備局等が主催する現場見学会」や「民間事業者が催行するインフラツアー」等の情報掲載をしております。当ポータルサイトは定期的に情報を更新し、旬なインフラツアーなど最新情報を集約し、紹介することによりインフラツーリズムの推進を目指します。

〈今回は、舟運社会実験の第2弾の秋葉原周辺・神田川ミニクルーズを紹介しています。〉

〈インフラツーリズムポータルサイト URL〉

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/index.html>

[報道発表](#) (PDF 形式) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo03_hh_000103.html

2. 平成28年度設計業務委託等技術者単価について

設計業務等技術者給与実態調査に基づき、平成28年度設計業務委託等技術者単価を決定し、平成28年2月1日より適用することとしましたので、お知らせします。

添付資料

[平成28年度設計業務委託等技術者単価について](#) (PDF 形式:251KB) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo08_hh_000325.html

3. 平成28年2月から適用する公共工事設計労務単価について

農林水産省及び国土交通省が、平成27年10月に実施した公共事業労務費調査に基づき、平成28年2月からの公共工事の工事費の積算に用いるための公共工事設計労務単価を決定したのでお知らせします。

添付資料

[平成28年2月から適用する公共工事設計労務単価について](#) (PDF 形式) 

[参考資料](#) (PDF 形式) 

詳しくは国土交通省ホームページでご覧いただけます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/totikensangyo14_hh_000552.html

◆◆地域の動き◆◆

村の未来を変える、奥多摩地域の可能性を拓ける
～国道139号線松姫バイパス整備事業～

山梨県道路整備課

1. 松姫バイパス整備事業の概要

一般国道139号は、山梨県北東部・多摩川源流に位置する小菅村と県東部の中心地である大月市を結ぶ唯一の生活幹線道路である。しかし標高約1250mの松姫峠前後の区間は、急峻かつ狭隘で九十九折りの峠道が14kmにわたって続くことに加え、大雨や積雪等による通行止めが過去12年間で23回という高頻度で生じ、平成26年豪雪時には1ヶ月にわたって全面通行止めとなるなど、生活環境改善や孤立解消は周辺地域の長年の望みであった。特に小菅村にとって影響は大きく、大月まで1時間以上を要することや、通行規制の頻繁さから、県内他市町村へ通じるバス路線もなかった。そのため、これまで子供が高校に進学する際は一人暮らしをせざるを得ず、高校進学を機に家族で村を出るケースや、村内から村外へ通勤が困難なために若者が就職を機に村を出るケースが見られた。



図1. 松姫バイパス位置図



図2. 松姫峠（旧道）の現況

（左…車両がすれ違い困難な様子、右…積雪による通行止め）

また通院や日用品の買い物にも公共交通機関では東京都奥多摩方面へ行かざるを得ず、松姫峠を含む未改良区間の存在による村民の日常生活への精神的、経済的負担は大きく、人口減少や少子高齢化を招く要因となっていた。

そうした状況から、一般国道 139 号の大月市と小菅村を結ぶ区間は古くは県道大月奥多摩線であったが、昭和 62 年から松姫峠へのトンネル建設を実現させるための陳情が行われ、平成 4 年に国道に昇格された。同平成 4 年には「大月地域道路整備推進連絡協議会」が、平成 8 年には「国道 139 号・松姫トンネル建設促進連絡協議会」が設立され、平成 13 年には松姫バイパス整備事業が国庫補助事業として採択され、事業着手された。



図3. 松姫バイパス全体一般図

このように、「一般国道 139 号松姫バイパス整備事業」は地域が抱えていた諸問題の抜本的解消を目的とし、高速道路も含めて道路トンネルとしては県内第 3 位の総延長を誇る全長 3066m の「松姫トンネル」を含む 2 トンネルと 4 橋梁による、総延長 3800m のバイパス事業である。

【一般国道 139 号松姫バイパス整備事業概要】

- 延 長：3,800m（2車線、全幅 8m）
- 規 格：3 種 3 級（設計速度 40km/h）
- 主要構造物：トンネル 2 本
 （松姫トンネル L=3,066m、
 小永田トンネル L=95m）、
 橋梁 4 本
 （新道築橋 L=21m、事桁橋 L=56m、
 山王橋 L=50m、小永田大橋 L=96m）
- 全体工事費：99.6 億円
- 事業期間：平成 13 年度～平成 26 年度

2. 地元の人々の熱い歓迎

松姫バイパスの工事は平成 17 年に着手され、松姫トンネルのルート上に鶴川断層による大破砕帯の存在が確認されるなどの問題はあったものの、工事関係者の努力や地元住民の惜しみない協力により、平成 26 年 11 月 17 日に供用が開始された。

多様な恩恵を地域にもたらす松姫バイパスは地域の期待も大きく、特に総人口約 700 人の小菅村では供用開始に当たって、村民 500 人以上が参加して盛大な記念式典が執り行われた。供用開始の直前になると、小菅・大月の両側から、開通を今か今かと待ちわびる地域の人々が長い車列を形成する姿も見られた。

また小菅村の強い働きかけにより実現した、大月市と結ぶバス路線の運行開始を記念して、村主催の路線バス運行開始出発式が行われ、小菅村は一日を通して祝賀ムードに包まれた。なお、運行バスの先頭車両には地元の未来を担う小菅中学校の児童たちが乗り込み、松姫トンネル通り抜けた際には歓喜の声が上がった。

これらの様子は各メディアにも報道され、特に地元・山梨日日新聞には見開きの開通記念特集が掲載された。このように周辺地域の長年の悲願であった「一般国道 139 号 松姫バイパス整備事業」は、県東部地域の生活環境改善への大きな期待と喜びをもって迎え入れられている。



図9. 小菅中学校の児童を乗せて運行開始出発式から出発し松姫トンネルを通過する先頭バス



図4. 開通セレモニー



図5. 開通記念式典(小菅村体育館)



図6. 供用直後の小菅側待機車列



図7. 供用直後の大月側待機車列



図8. 富士急山梨バス運行開始出発式(「道の駅こすげ」予定地)

3. 注目すべきストック効果

上記で採り上げたような周辺の公共交通機関と連携した取り組みなども合わせ、松姫バイパスは小菅村周辺地域に以下の特筆すべきストック効果をもたらしている。

(1) 安全で快適な生活の確保（交通ネットワークの強靱化）

→大雨や積雪による規制が解消されると共に、大月までの所要時間が30分以上短縮され、信頼性の高い交通網が確保された。さらに開通後調査では交通量が約3倍に増加し、住民の日常交通の利便性が飛躍的に向上したことが伺える。加えて防災拠点としても機能する道の駅開設により、以前より安全・安心な生活環境確保が実現された。

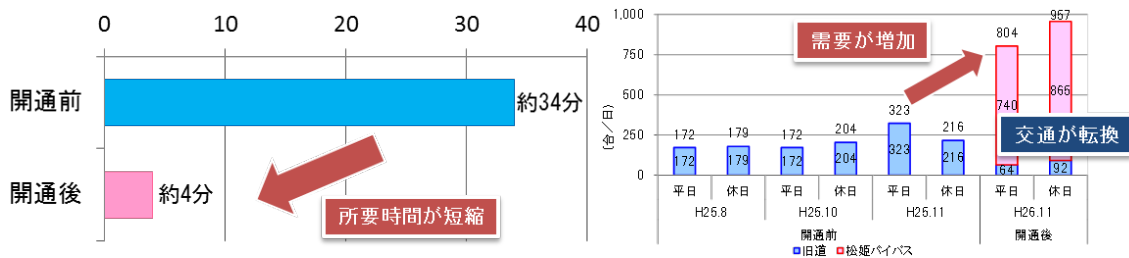


図10. 松姫バイパス整備区間における所要時間短縮及び交通需要増加

(2) 沿線地域の生活環境の改善（地方創生）

→バス会社との官民共同の取組により、大月市に通じるバス路線が運行開始され、地域の通勤や通学、通院、買い物といった生活環境全般が大きく改善された。また開通後アンケート調査によると、大月市内の高校へ村内の実家からの通学を選ぶ学生や就職先に村内から通勤することを喜んでいる若者も多く、若者が村に留って少子化及び人口減少にも歯止めがかかると期待されている。

(3) 広域観光ルートの形成（観光による地域振興）

→時間短縮効果やバス路線の運行開始により、東京都奥多摩地域と山梨県東部地域及び世界文化遺産の富士山を有する富士北麓地域とを結ぶ広域観光ルートが形成された。開通直後には小菅村の主要観光施設である「小菅の湯」の来客数も開通前と比較して20倍以上と飛躍的に増加しており、同所に開設した「道の駅こすげ」との相乗効果により、今後もさらなる村の観光業発展とそれに伴う雇用の創出が見込まれる。

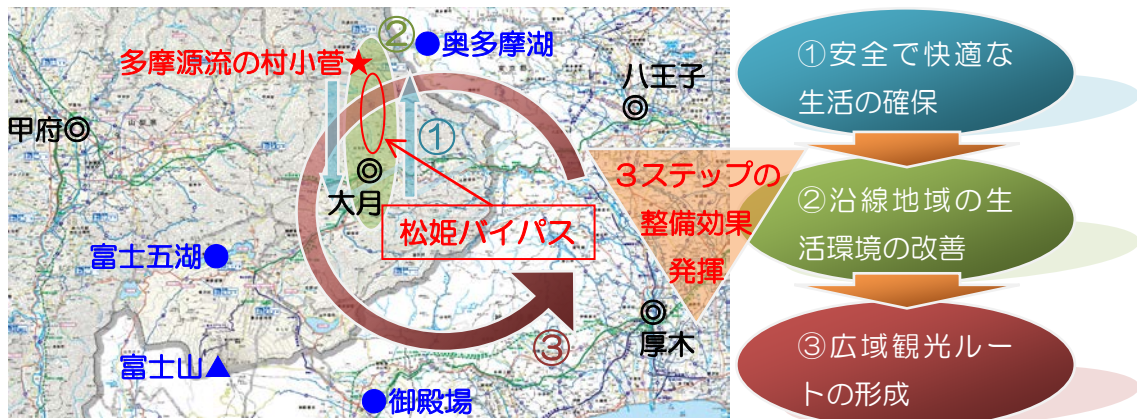


図11. 松姫バイパスのストック効果イメージ

4. 小菅村における今後に向けた期待

小菅村はバイパス完成以前から、バイパスによる交通状況改善を活用した路線バスの新規運行や観光拠点設置を総合計画に定め、人口減少や高齢化を食い止めて地域を活性化させる取り組みを開始していた。その結果が先に紹介した富士急行山梨バスの「大月駅～道の駅小菅」運行区間の開業であり、バイパス開通と同時に大月市からのバス路線が村の中心部まで延伸され、小菅村は県内の市町村と初めて公共交通機関で結ばれることとなった。

また、前述のとおり平成27年3月には村の観光施設、イベント等の情報発信や特産品の販売、飲食の提供を行うと共に、災害時には住民の避難所や復旧、支援活動の拠点としても機能する「道の駅こすげ」が開設した。周辺では、奥多摩源流の村ならではの様々な楽しみが用意されている。清流でのヤマメ・イワナ釣り、山頂で壮大なパノラマが眼前に広がる大菩薩峠へのトレッキング、森林浴しながらの本格的アスレチック、毎年GWに盛大に行われる「水と火と味の祭典」多摩源流祭り…。「道の駅こすげ」のHPを開くと、小菅村の美しい四季折々の自然の景色とともに、こうした村全体の観光案内がとて見やすく表示される。

さらに若者の生活環境充実を目指して、大月市内の高校への通学バス運行開始を計画しているなど、小菅村では松姫バイパスの完成を契機とした地域活性化に向けた取り組みが次々に実行に移されている。

今後も、観光客の増加に伴う村外との交流人口の増加や、雇用創出に向けた観光や物産を目玉にした村おこしの推進に加え、定住人口の増加に向けたより便利で子供からお年寄りまで住みやすい村づくりへ向けて、小菅村の挑戦は続く。



図12. 道の駅こすげHPより <http://kosuge-eki.jp/>